

# あいつぐ負担増で高齢者は悲鳴 後期高齢者医療制度実施は認められない 農業委員の定数削減をするな

## 12月議会最終日、佐藤あき子市議が反対討論

佐藤市議は反対理由として、高齢者を75歳という年齢で差別し、医療から遠ざけるしくみであること。広域連合に国からスケジュールがあり、きて内容が決められていき、高齢者医療という地方自治体にとって重要な課題について決定権を奪う、地方自治軽視

### 後期高齢者医療制度実施 に関わる条例に反対

後期高齢者医療制度の実施に関する条例で、1議案は農業委員の定数削減の条例です。いずれも党市議団が所属する常任委員会で審議され、反対の表明をしたものです。



佐藤あき子市議

12月議会最終日の14日、佐藤あき子市議は、4議案について反対討論に立ちました。

の制度であること。厚労省の宮島俊彦大臣官房総括審議官が「当初の制度設計で5年くらいはやっていける」がその後の財源は見直しが必要と述べているように、皆保険制度の維持という点でも問題のある制度であること。の3点を指摘しました。

### 農業委員の定数削減ではなく、積極的役割を

佐藤市議は「制度の発足時の山形県の保険料は、現行の国保税額を下まわっているが、2年ごとの見直しでは人口比率の増加に応じて高齢者の負担割合が増加することなどから、保険料の値上げが見込まれる。現在賦課されていないサラリーマン被扶養者は来年10月から9割減額で徴収され、さらに半年後には減額もなくなる。高齢者を扶養している家族に負担がかかることとなる。75歳になるとお金をとられる、長生きにペナルティを課すような、人道的にも問題のある制度」と述べ、「高齢者は、所得税・住民税の増税、国保税・介護保険料の値上げ、医療費の窓口負担の引き上げなど、あいつぐ負担増で悲鳴をあげてきた。その上さらに、医療から高齢者を遠ざける制度は認められない」と強く主張しました。



# 日本共産党 山形市議団報告

2007年  
12月23日  
第1225号

日本共産党山形市議団  
山形市小白川町四 一三 一五 電話(六四二)四三三三  
メール 026424313@ams.odn.ne.jp  
市議会議員 高橋か一郎 柏倉一二七 (六四三)三四三九  
今野 誠一 船町一六一 (六八四)九八三二  
佐藤あき子 青田一七三六A (六四二)八六四〇  
ホームページ URL://www.cdr.np/ja/j3-jama.html

# 低所得者への 灯油代の助成を

予算委員会で高橋か一郎市議、厚生委員会で佐藤あき子市議が主張  
本会議で国への意見書を採択、19日党市議団として副市長に申し入れ

6日の予算委員会で高橋か一郎市議は「原油高で生活保護世帯など低所得の方々も大変になっている。手だてを考えるべき」と主張しました。厚生委員会では佐藤あき子市議が「生活保護受給者から、このままではくらしていけないとの相談も寄せられている。国の施策が揺れ動いており、一日も早く意見書をあげるべき。市としても生活保護や母子家庭を視野に入れた制度を検討してほしい」と主張しました。12議会最終日、国への意見書が採択されました。

党市議団は19日、荒井満副市長に対し低所得者への灯油代助成を行うよう申し入れを行いました。荒井副市長は「市長に申し上げ、対処したい」と答えました。

### 請願3件はいずれも継続審査

新日本婦人の会山形支部から提出された「家庭ごみの有料化をしないこと」と県社会保障推進協議会から提出された「後期高齢者医療制度の抜本的見直しを求めること」の2件については、佐藤あき子市議が採択を主張しましたが、継続審査となりました。前議会で継続審査となっていた「地方財政の充実・強化を求めること」については、今議会でも継続審査となりました。